

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年6月

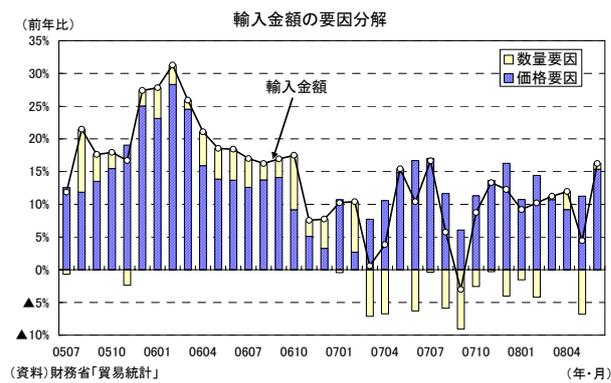
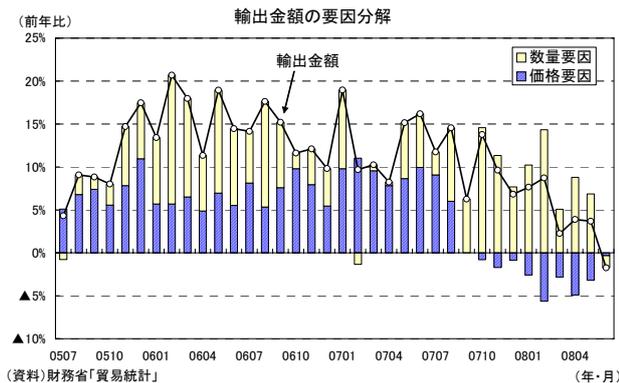
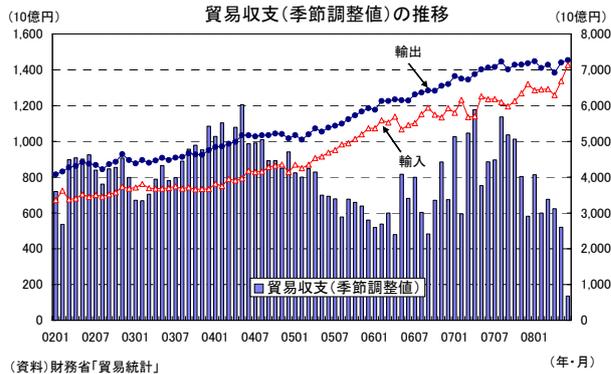
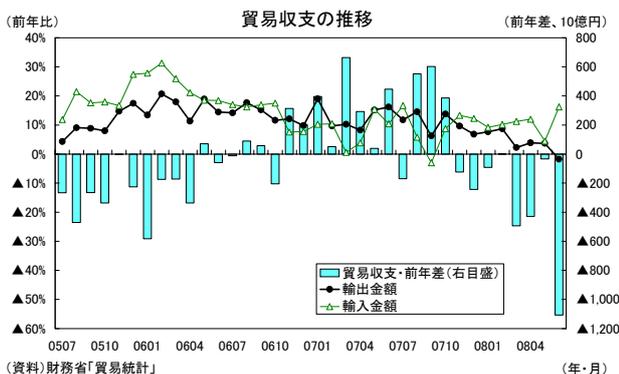
～貿易黒字が急減、4-6月期の外需は前期比横ばいに

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易黒字が急減少

財務省が7月24日に公表した貿易統計によると、6月の貿易黒字は1,386億円、前年比▲88.9%の大幅減少となり、市場予想（ロイター集計：5,030億円、当社予想は5,438億円）を大きく下回った。



円高の影響で輸出価格が前年比▲0.3%（5月：同▲3.1%）と10ヵ月連続でマイナスとなる中、輸出数量が前年比▲1.4%（5月：同7.0%）と16ヵ月ぶりに減少に転じたため、輸出金額は前年比▲1.7%と03年11月以来のマイナスとなった（5月：同3.7%）。

原油高などにより輸入価格が前年比15.3%（5月：同11.6%）と伸びが高まったことに加え、輸入数量が前年比0.8%（5月：同▲6.4%）とプラスに転じたため、輸入金額は前年比16.2%となり、

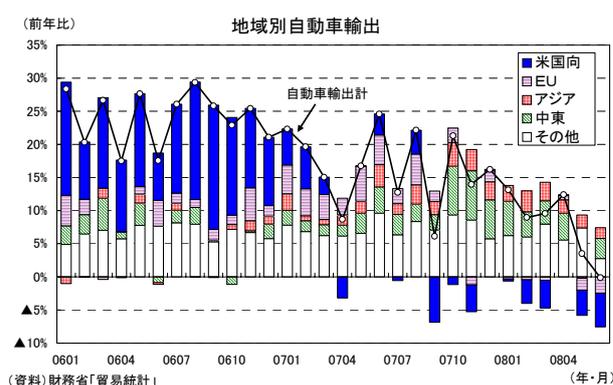
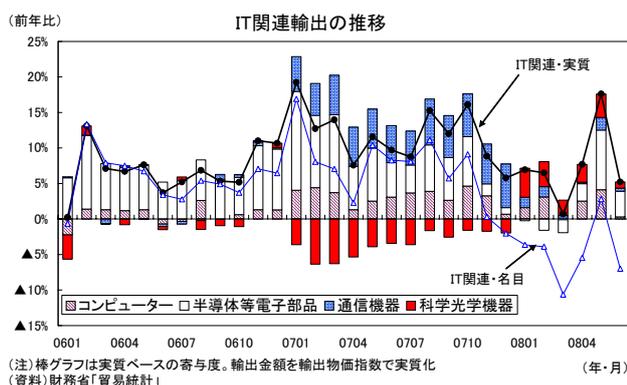
5月の同4.4%から伸びが大きく加速した。

貿易黒字の季節調整値は1,354億円、前月比▲74.0%の大幅減少となった。原油価格はこのところ下落しているが、輸出が急減速しているため、原油価格が再び上昇に転じるようなことがあれば、7月以降、貿易収支が赤字に転落する可能性もあるだろう。

2. 米国向けの輸出数量が再び減少へ

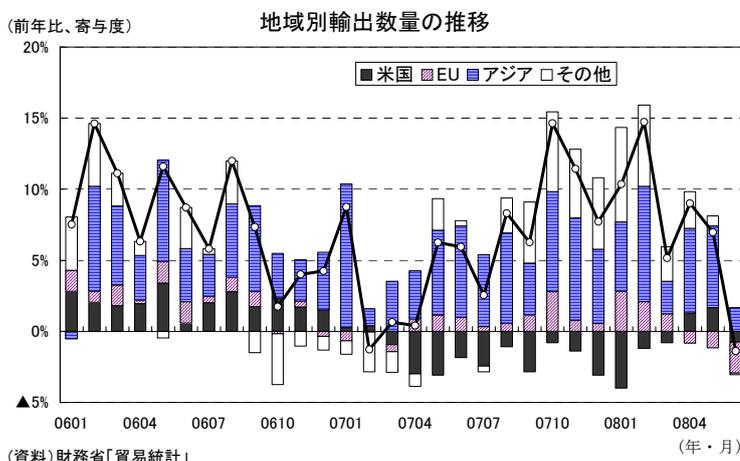
輸出の内訳を見ると、IT関連品目では、コンピューター（名目・前年比▲18.5%）、コンピューター・部分品（同▲16.5%）、半導体電子部品（同▲4.0%）、通信機（同▲4.9%）、科学光学機器（同▲1.6%）の全てが減少し、全体では前年比▲7.0%の減少となった。IT関連品目は価格の大幅な下落が続いているものの、実質の伸びも前年比5.2%と5月の同17.6%から急減速した。

自動車輸出は前年比▲0.1%（5月：同3.5%）と05年1月以来の減少となった。アジア向け（前年比19.5%）、中東向け（同36.9%）、ロシア向け（同34.2%）は高い伸びを維持したが、米国向け（前年比▲14.2%）、EU向け（同▲15.1%）が5月に続き二桁の減少となり、全体を大きく押し下げた。



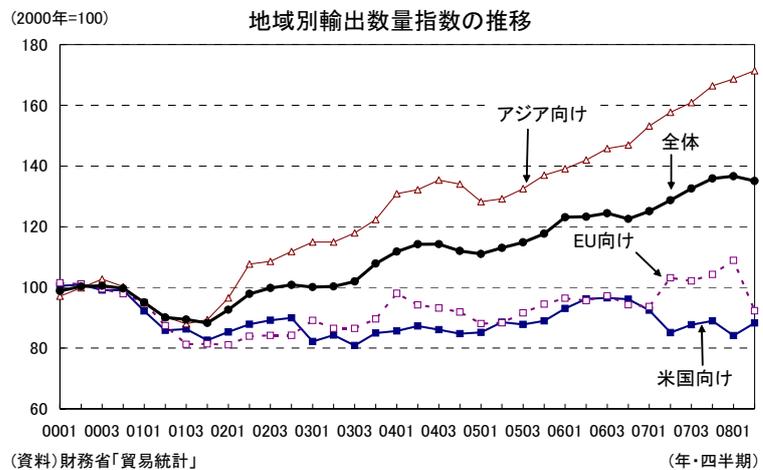
輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲4.0%（5月：同8.8%）と3ヵぶりに減少に転じ、アジア向けは前年比3.2%（5月：同11.2%）と急減速、EU向けは前年比▲16.7%（5月：同▲8.6%）とマイナス幅が急拡大した。

中東、ロシアなど、主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向け輸出はこれまで高い伸びを続け、米国向けの落ち込みをカバーしてきたが、6月の「その他地域」向けの寄与度は▲0.1%（当研究所による試算値、5月は0.7%）とほぼ横ばいにとどまった。今月の結果だけで判断することは早計だが、昨年後半に比べると増加ペースが大幅に鈍化していることは確か



であり、米国経済減速の影響が世界経済に波及していることを示したものと見えよう。

4-6月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比5.0%、EU向けが同▲15.2%、アジア向けが同1.6%、全体では同▲1.1%となった。米国向けは2四半期ぶりに増加したが、1-3月期の落ち込み(前期比▲5.4%)を取り戻すまでには至っていない。6月の輸出数量が大きく落ち込んでいることや、米国の国内需要が依然低迷していることからすれば、4-6月期の増加は一時的なものにとどまる可能性が高い。



3. 4-6月期の外需は前期比横ばいに

6月までの貿易統計と5月までの国際収支統計の結果を踏まえて、08年4-6月期の実質GDPベースの輸出入を試算すると、輸出入ともに前期比で▲3%弱の減少となり、外需寄与度は前期比でほぼゼロとなった(1-3月期は前期比0.5%)。国内需要は個人消費の低迷などから前期比で減少に転じる可能性が高いことに加え、外需の押し上げ寄与が剥落したことで、4-6月期の実質GDP成長率が4四半期ぶりのマイナスとなることは避けられない情勢となってきた。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。